

手順書:動脈血液ガス分析関連

22. 直接動脈穿刺法による採血(1)(2)

【特定行為の概要】

医師の指示の下、手順書により、身体所見(呼吸状態、努力呼吸の有無等)及び検査結果(経皮的動脈血酸素飽和度(SpO_2)等)等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、経皮的に橈骨動脈、上腕動脈、大腿動脈等を穿刺し、動脈血を採取した後、針を抜き圧迫止血を行う

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

呼吸状態、循環状態、酸塩基平衡、電解質、貧血等の評価に動脈血液ガス分析のための動脈血採血が必要な患者

病状の範囲外

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

出血傾向がない場合
穿刺部の血管に病変・異常がない場合

不安定
緊急性あり

担当医師に直接連絡

病状の範囲内



安定

緊急性なし

【診療の補助の内容】

直接動脈穿刺法による採血

<橈骨動脈穿刺>

- ・Allen test で陽性(回復時間が 5 秒以内)であることを確認する
- ・適切な肢位をとらせ手首を固定する
- ・ポピドンヨードやクロルヘキシジンにて消毒する
- ・22G～24G の穿刺針を使用し 30～40 度の角度で動脈に向かって穿刺する
- ・採血後 5 分以上圧迫を行う。凝固異常や抗凝固薬の内服患者には 10～15 分の圧迫を行い止血を確認する

<上腕動脈穿刺>

- ・患者に仰臥位になってもらい、上肢を伸展・回外させる
- ・ポピドンヨードやクロルヘキシジンにて消毒する
- ・22G～24G の穿刺針を使用し 45～60 度の角度で動脈に向かって穿刺する
- ・採血後 5 分以上圧迫を行う。凝固異常や抗凝固薬の内服患者には 10～15 分の圧迫を行い止血を確認する

<大腿動脈>

- ・患者に仰臥位になってもらう
- ・恥骨結合と上前腸骨棘の間にある鼠径靭帯より末梢側の大腸動脈を確認する
- ・ポピドンヨードやクロルヘキシジンにて消毒する
- ・22G～24G の穿刺針を使用し 60～90 度の角度で動脈に向かって穿刺する
- ・採血後 5 分以上圧迫を行う。凝固異常や抗凝固薬の内服患者には 10～15 分の圧迫を行い止血を確認する

<確認事項>

異常・緊急性あり

担当医師に直接連絡

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

意識レベルの変化 バイタルサインの変化
穿刺した動脈の触知状態と血腫形成の有無 出血傾向の有無



【医療の安全を確保するために医師又は歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師に直接連絡する

【特定行為を行った後の医師又は歯科医師に対する報告の方法】

担当医師に直接連絡する
特定行為の実施を診療録に記載する